

**Q 4 : 一時間の指導過程はどのようにしたらよいですか？**

**A :** 指導過程は、その時間のねらいに沿って、柔軟に組み立てることが大切ですが、基本的な指導過程が決まっていると、教師も児童も1時間の見通しをもって学習することができます。また、英語活動の指導に慣れていない教師でも、取りかかりやすいという利点もあります。

また、授業の1単位時間を子どもの発達段階や学習の特質に応じて、弾力的に運用することも可能です。通常の45分だけでなく、低学年では20～25分を2回行うことや毎日10～15分程度の時間を継続して行うことなど、多様な設定が考えられます。

では、授業の1単位時間を45分とした場合の一般的な英語活動の指導過程を紹介してみましょう。

**◎英語活動の基本的な指導過程**

	内 容	ねらい・大切にしたいこと
Greeting	☆ あいさつの場 ・遊び感覚で、動きながら、その時の気分や体調に合った挨拶をする。	・英語によるあいさつをすることで英語の学習に取り組む意識を高揚する。
Warm up	☆ 楽しい雰囲気づくりの場 ・歌、絵本、ミニゲーム 等	・歌いながら身体表現ができ、表現や語句が自然に身に付く。 ・英語の音やリズムに浸り学習意欲がもてるようにする。
Today's Topic	☆ ALT 中心の場 (ALTがいない場合はHRT(学級担任)またはT2等が担当) ・実物、写真等によるshow & tell	・ALTと児童とがコミュニケーションを図ることができる。 ・ALTが話す英語に親しむことができる。 ・外国の生活や文化などについて視野を広めることができる。
Activities	☆ 本時の中心となる活動の場 ・スキットによる紹介・交流・コミュニケーションを図る活動 等 ・コミュニケーションを図る活動を行うための個人、ペア、グループ、スクランブル等の学習形態の工夫	・スキットを通して、活動のやり方やルールを示す。 ・一人一人が必ず英語で話す必然性がある活動を設定する。
Comments	☆ 個のよさを認め、広める場	・自己評価、相互評価の場を設定する。 ・HRTは主に態度面、ALTは発音や話し方などと評価の観点を分担する。

それぞれの指導過程で本時の中心となる活動に関連した内容を扱うと効果的に英語に親しむことができます。